



# 「つや姫」栽培管理情報第2号

～1.9mm ふるい目に対応した米作り～

平成 29 年 6 月 9 日 島根県農業技術センター技術普及部

**分けつが順調に増加！**  
**過繁茂を防ぎ、健全な稲体をつくりましょう**

「つや姫」マイスターの各ほ場では、4月下旬から5月中旬にかけて田植えが行われ、最も早いほ場では、田植え後40日を経過しました。このほ場では、5月の気候が高温多日照であったことから、分けつが順調に増加し、有効分けつを確保しました(裏面参照)。

有効分けつ確保の時期については、田植え日や標高の違い等により異なりますが、6月中旬にかけては、分けつが急激に増加する傾向にあり、時期を見逃す可能性もあります。そのため、ほ場を良く観察し、適期に中干しを開始する等、過繁茂を防ぎ、健全な稲体をつくりましょう。

なお、中国地方の3か月予報(5月24日 広島地方気象台)では、「つや姫」の登熟期間にあたる8月は、「平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。」となっており、「猛暑」が予想されます。この天候に備えた過繁茂対策は、重要なポイントとなります。

## 1 当面(有効分けつ確保後～最高分けつ期)の栽培管理ポイント(水管理)

### □適期中干し開始

- 有効分けつ確保後(茎数: 350本/m<sup>2</sup>≒20本/株)は、間断かん水から中干しへ移行します
- 中干しは、窒素の過剰吸収を抑えて無効分けつの発生を防ぐ他、土壌中にある硫化水素等の有害物質を少なくするとともに酸素を供給します。このことにより、根の活力低下を防ぎ、根を深く伸ばして後期の養分吸収を良くします
- さらに、田面を固めて地耐力を高め、収穫作業を容易にする等の効果もあります
- また、用水不足が懸念される地域では、中干しが難しいので、浅水や飽水管理(足跡に水が残る程度)を行います
- なお、幼穂形成期(6月下旬～7月上旬の見込み)以降は、再び間断かん水に戻します

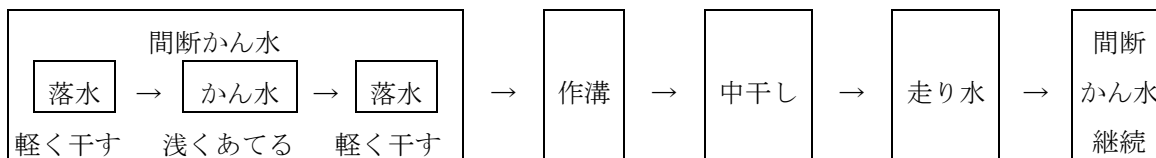


図 中干しの手順

## 2 「つや姫」普及実証ほの状況



〔写真1〕 4/28 植：安来市飯生町

6/7（田植え後 40 日）、茎数：351.6 本/m<sup>2</sup> → 本日、有効分げつを確保したので、浅水または飽水管理に移行します



〔写真2〕 5/5 植：雲南市三刀屋町

6/6（田植え後 32 日）、茎数：313.9 本/m<sup>2</sup> → 少し早いですが、自然落水後、中干しを始めます

☆穂肥を中心とした幼穂形成期以降の管理については、6月28、29日に行うマイスター研修会にてお伝えします

問い合わせ先 農産技術普及課 松崎、野津 TEL(0853)22-6967